

総合調査設計では、大阪を中心としたまちの魅力を発見、発掘することを目的として「大阪探検隊」なる活動を行っています。

今回は、水の都大阪を満喫する船めぐり「落語家と行く なにわ探検クルーズ」に乗船してきましたのでレポート致します。

クルーズ船の概要

水都・大阪の昔と今と未来を 90 分で結ぶ 49 の橋めぐり

「水の都」の大阪は、網の目のように堀川がめぐらされていました。～計画的な堀川は、秀吉が大坂城外堀として掘った東横堀川が最初。そして江戸時代になると大坂の町の発展にともない堀川は舟運に利用されてきました。～（案内パンフレットより）

クルーズ船は、大阪市内中心部を口の字型に流れる河川形態を利用した「川の環状線コース」、U S J から東横堀川経由の「川のゆめ咲線コース」があり、追加オプションとして大川を巡るコースが用意されています。



今回のクルーズは川の環状線コースで、湊町リバープレイス前の船着き場を発着場とし、道頓堀川、木津川、堂島川（土佐堀川）、東横堀川の順に運行するものです。

上及び左）
「落語家と行くなにわ探検クルーズ」パンフレット

湊町リバープレイスを出発～道頓堀川水門へ

出航は夜6時45分。ライトアップされたリバープレイスや遊歩道の噴水が気分を盛り立てます。オレンジ色で照明された船内にはジャズが流れ、リラックスできる空間となっています。



高さ調節が可能な船が沈み込み、水面との距離が縮まったところで、いよいよ出航です。道頓堀川をゆっくりと西へ下り、堀江の街並みが窓越し見えてきます。

そして旅先案内役である落語家の方が(桂一門の20番弟子)クルーズの案内や橋や川にまつわる概要を説明してくれます。

「エー、大阪は八百八橋で有名ですが、実際何橋あるか皆さんご存じていらっしゃいますか」

橋や川に関わる業務にたずさわっているのですが、何橋あるかという問いには自信がありませんでした。

現在、大阪市内には790橋があるそうです。



神戸市には、その倍の橋がありますが、市域の面積に対する橋の割合は、大阪市が神戸市の10倍だそうです。

ということは、大阪では人々がそれだけ河川に遭遇する場面が多いということになります。

そしてガルウイングの窓がBGMに乗って開口。一気に視界が広がります。前面には、ライトアップされた道頓堀川水門の姿が見えます。

開門機能を持つ水門ですが、今回はあまり水位の差は感じられませんでした。

ただ近くで開閉する観音開きの門はダイナミックで、これもひとつのアトラクションとして面白いものです。



道頓堀川から木津川、堂島川、東横堀川へ

大阪ドームを目印に木津川へ突入。木津川に架かる橋は低く、船の屋根すれすれに運行するため迫力満点。一部土佐堀川を経由して、堂島川に入ります。

黒川記章設計の国際会議場、クリスマスイルミネーションに彩られたリーガロイヤルホテルなどが見え始め、中之島らしい夜景が満喫できます。



中之島には諸藩の蔵屋敷があり、全国からの物資が集まっていたそうで、今も昔も中之島は大阪経済の中心として重要な場所であると再認識しました。

大江橋をくぐり、大阪市役所、石井幹子氏によって照明デザインが施された中央公会堂周辺で停泊。



写真)

ライトアップされた中央公会堂。建物の構造を活かしたライティングは、照明デザイナー石井幹子氏によるもの。

河川側から見ると、手前の高木がシルエット化されて、ライトアップが際だっている。

中之島では今月 19 日から 25 日まで光と水のファンタジーが開催されるが、こちらも必見。

アーチ型の水晶橋は本ルートでの難関だそう。たしかに橋ぎりぎりに通過。

中之島剣先公園を回り天神橋をぬけて、東横堀川へ。

高麗橋をくぐり、東横堀川水門で開閉待ち。

他の船へ開閉中の合図を行うシャワーが消え、いざ出発。

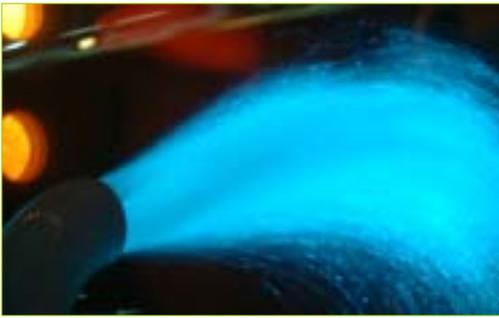


ここで、落語芸の基本であるうどんを食べる仕草を伝授。お箸の上げ下げを目で追うようにすると、うどんを食べているように見えるとのこと。また、口に入れた後、うどんから目をそらしやや上向きに顔をあげることもコツだそうです。

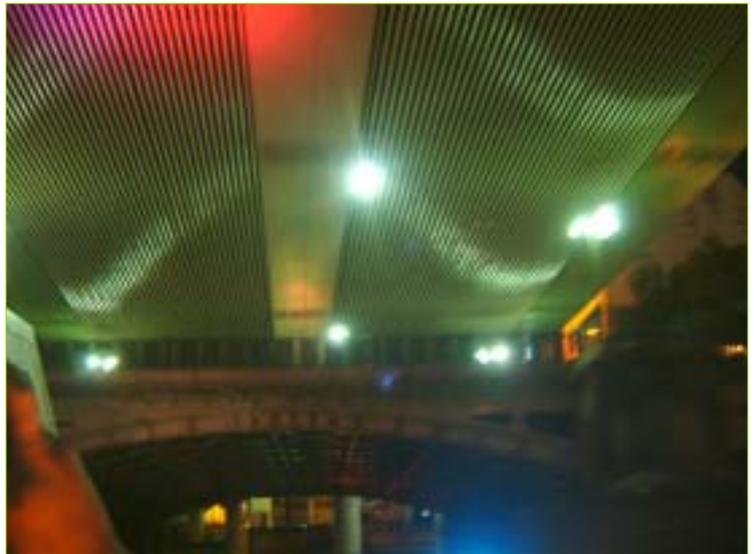


写真上) 鋼製の構造がライティングされた天神橋

写真下) 東横堀川水門



東横堀川は、阪神高速が上面を通るため、暗く囲まれた空間となっていますが、船から色とりどりの照明をライティングすることにより、他とは違った河川空間を楽しむことができます。



道頓堀川から湊町へ



上大和橋を抜け、直角にカーブをして道頓堀川へ突入。日本橋を越えたあたりから、色鮮やかなネオンに包み込まれます。

そして、整備が進められている遊歩道を横切り、本クルーズの最大のクライマックスである戎橋を通過。

今や大阪の原風景としての地位を確保するネオン群を、真正面で見るとその大きさと色とりどりの光により迫力満点。



深里橋を抜け、リバープレイス船着き場に着岸。

それぞれの河川ごとに異なる大阪の表情を楽しむことができる他、トワイライトクルーズは、ビールや熱燗などが飲み放題。

枝豆がつきますが、行かれる時は是非、お弁当やおつまみを持参されると良いかと思います。(船内おつまみは500円)